令和５年度　学 校 経 営 方 針

栃木市立栃木第五小学校

Ⅰ　学校教育目標設定にあたって

本校は昭和２６年に旧栃木県園芸指導所跡地に竣工され、本年度で創立７２年目に当たる。東は市街地に隣接し、バイパスや通り沿いには店舗が点在している。西には太平山を頂き、麓には永野川が流れる。学区内には、保育園、幼稚園、中学校、高校、大学が数多く存在し、文教地域を呈している。

また、学区は広く遠方から通学してくる児童もいるが、登校班が存在しないことが特徴でもある。児童数は、開校当初は、４００名台（１２学級）で推移してきたが、昭和４４年頃から増加に転じ、昭和５６年には１１６２名（３０学級特１）となった。近年では、少子化等により減少傾向をたどり、現在（令和５年度）は４７３名となっている。

従来、学校周辺は米・野菜等の農作物を栽培する農村地域であったが、地域の宅地造成の増加により学校を取り巻く環境も変貌を遂げてきた。すなわち農村地域から住宅地への変化である。それは、とりもなおさず地域の変化とともに家庭環境の変化、さらに子どもの変化を伴うものと考えられ、今後はそれらの変化に対応する学校づくりが求められる。

発達障害の可能性があり特別な支援が必要な小中学生は通常の学級に８．８%、１１人に１人程度在籍していると推計されることが２０２２年の文部科学省の調査で分かったが、本校も例外ではないと考えられる。最大限可能な範囲ですべての子どもがよくわかる授業設計、すなわち授業におけるユニバーサルデザインの考え方を大切にしていくことは、多様な特性のある子どもが存在する本校にとって重要な教育課題であると考える。よって、令和５年度においては、「子どもが安心して過ごし、互いに認め合うことができる」学校を基盤として、本校教育目標である「かしこく： 進んで学び、自分の考えや思いを豊かに表現できる子」「やさしく ：誰とでも好ましい関係が築ける子」「たくましく：自分で考え、正しく判断し、主体的に行動できる子」の達成に向けた重点努力目標及び具体策を策定し、全校を挙げて取り組んでいきたい。

また、コロナウイルス感染症の流行から３年が経過し、５月８日からは５類感染症となった。これまで本校では、コロナ禍を契機として従来の行事等の教育活動の精選、いわゆる「働き方改革」を推進してきた。これは、教職員の負担を減らし、自らの授業を磨くとともにその人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的とされている。本校では、働き方改革を推進し、職員の退勤時間が早まるなど一定の効果が出ている。今後も取り組みを進め、職員が疲弊を積み重ねることなく、心に余裕をもち、豊かな心で子供たちに接していく学校を目指していきたい。

Ⅱ　学校経営の方針と重点

１　本校の教育目標とめざす子ども像

○　か　し　こ　く	☆ 進んで学び、自分の考えや思いを豊かに表現できる子
○　や　さ　し　く	☆ 誰とでも好ましい関係が築ける子
○　た　く　ま　し　く	☆ 自分で考え、正しく判断し、主体的に行動できる子

２　学校経営の方針

全教育活動を通じて、本校の教育目標達成のために、全教職員の特性発揮と協働体制により、「チーム学校」としての機能性を向上させる。

（１）学力を高める授業改善・指導力の向上

児童が「分かる喜び」「できる楽しさ」「学び合うことのよさ」を味わえる授業を展開できるよう、学業指導の徹底と指導力の向上、家庭学習の充実及び一人一台端末環境下での学びへの対応に努める。

（２）チーム学校としての機能性の向上

校内の協働体制、危機管理体制を確立するとともに、防災教育、安全教育、情報モラル等に関する指導の充実を図る。外部機関との連携などにより、児童の安全確保といじめ・不登校・問題行動・児童虐待等への未然予防と早期解決に努める。

また、家庭や地域と互いに連携・協力し合い、信頼感に満ちた学校経営に努める。

＜本校ならではの学校づくり＞

① あいさつ運動の深化・拡充
② 地域の環境（太平山等）を生かした「ふるさと学習」の推進。「総合的な学習の時間」の充実
③ 異年齢集団による交流活動の活性化。
④ とちぎ未来アシストネットを積極的に活用する等、地域と連携した学習や活動の積極的推進。
⑤ 地域安全ボランティアと連携した安全指導の推進。
⑥ 栃木西中学校、栃木中央小学校と連携した小中一貫教育の推進。

（３） 学校課題研究（グローバル教育研究）の推進に努める。
＊令和５・６年度栃木市グローバル教育プログラム実践研究指定
① グローバル教育の本質的理解と実践を推進する。
② タブレット PC 端末を活用した授業づくりに関する指導力の向上を図る。
③ 研究授業やミニ研究授業等、授業実践を積極的に公開し、互いに評価し合うことにより、質の高い授業を創造し、学力のボトムアップを図る。

（４）地域とともにある学校・学級づくりの推進
西中学区での小中一貫教育を進めるとともに学校運営協議会を軸とするコミュニティスクールの運営を進め、地域ぐるみで、教師にとっても児童にとっても、互いに認め合い、支え合い、高め合う、活気に満ちた居がいのある学校づくり、学年・学級づくりに努める。

３ 努力点と具体策

目標	かしこく	やさしく	たくましく
努力点と具体策	**確かな学力**	**豊かな心**	**健やかな精神と身体**
	１ 学ぶことのよさを実感できる学習指導の展開・学業指導の充実 ア 情報活用能力（情報モラルを含む）の育成 イ ユニバーサルデザインの視点に立った授業構想 ・環境整備 ウ 学び合い活動の活性化と一人学びの充実 エ 学業指導の推進（規範意識を持って「学びに向かう集団」の育成） オ グローバル教育の理解と実践	**１ あいさつ励行や道徳、ふるさと 学習、芸術鑑賞等の取組による豊かな心の育成** ア あいさつ運動の推進（心のこもったあいさつの実践） イ よりよく生きるための基盤をつくる道徳教育の充実 ウ 地域とともにあることを実感できる「ふるさと学習」の充実 エ 多様な体験活動を取り入れた情操教育の推進	**１ 教科体育・課外活動等を通した体力や根気強さの育成** ア 楽しさと活動量のある教科体育の実践 イ 進んで運動に取り組む児童の育成（休み時間、課外活動等） ウ 主体的に取り組み、最後までやり遂げる力の育成（係活動・児童会活動）
	２ 読書活動の推進と家庭学習の習慣化 ア 児童への奨励、家庭への啓発による家庭学習の充実（内容の充実、習慣化） イ 読書活動の習慣化	**２ 問題の早期発見、未然防止に向けた児童指導・教育相談の充実** ア 未然防止、早期発見・早期対応を目指した児童指導の推進（情報共有） イ 関係機関等との連携も視野に入れた教育相談活動の充実	**２ 基本的な生活習慣の定着と望ましい健康・安全習慣の育成** ア 基本的な生活習慣の定着 イ 自分の身は自分で守る安全教育、防災教育の推進 ウ 健やかな心と体をつくる食育の推進

西中ブロックの目指す子ども像＜小中一貫教育＞
「人間味あふれ たくましく生きる児童・生徒」

コミュニティスクールの推進
（学校運営協議会との連携）
とちぎ未来アシストネットとの連携

働き方改革の推進
・日課の工夫 ・全校集会等のオンライン実施 ・体育発表会の簡略化
・会議、打ち合わせの短縮化 ・宿泊学習の負担軽減（太平山日帰り、海浜１泊）
・帳簿記入の簡略化（週案提出廃止、個人の記録等簡略化） ・表彰を放送で実施 等